

日本ベンチャー大学の挑戦

後篇～どこでも生きていける雑食系人材を育成する～

日本ベンチャー大学 理事長代理
山近 義幸 やまぢか・よしゆき

日本ベンチャー大学 代表取締役
今元 英之 いまもと・ひでゆき



山近氏



今元氏

毎日が変化のある修練の場

朝8時50分に集まった学生は、朝礼の後まず勉強の場を徹底的に掃除することからはじめる。「キャンパスを持たないので、お借りする他の大学や企業、神社を掃除しないとスタートできません。ボランティアで近隣の公園のトイレ掃除や、土曜日とか課外授業で神社、お寺の掃除をしますが、結構しんどいですね。学生に聞くと掃除が習慣化して自分の心を整理することができて来るといいます。でも使ってもらう人のためではなく、自分のためにやっているようになつたら本物です。自分の心を整理するためにはやる意識が出てきたらいいと思っています」と今元氏。

掃除後は新聞・読書のアウトプットタイム。

「新聞を毎日読むように指導しています。皆で記事をアウトプットして、ディスカッションをするのが授業のはじまりです。土日は、新聞を

読まない学生もいますが『中毒症ぐらいになれ』とっています」(今元氏)

講師を招いた授業は10時30分～14時40分まで。講義、質問タイム、講師とのディスカッションとびつりだ。授業の中味もバラエティに富んでいる。多方面な業界の会社社長、政治家、俳優、大学学長や教授、多方面な業界の会社社長、書道家、プロレスラーなど。果ては農業実習や飛び込み営業実習に至るまで、より実践的内容になっている。

例えば、農業実習。「ベンチャー畑」としてある企業さんから畑を借り、自費で種を購入して育てていく。

収穫したものを販売し、収益計算をする。赤か黒かは自分たちの努力次第だ。

「若者に何かしてあげたい、自分も成長したいと思ってくれる講師の方をお願いしています。講義も生々しい話が多いので寝る学生はいないですね。また学生には「メモを取るより出来るだけ講師の顔を見る」とっています。講師も

見られていると段々つてこられるので熱を帯びてきます。サブプリミナル効果ですね。その日の夜までに、何を感じているか議事録を全員がメールで回します。それぞれどこに興味を持ったかが解って面白いですね」(今元氏)

実践で身に付く経営センス

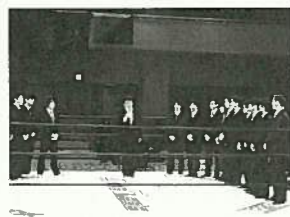
山近氏も積極的に登壇する。「学生にはTGGを教えています。TII体験すること、GII現場に行くこと、KII経験すること。実践を第一に重要視しています。例えば、授業でもそうですが『鞆持ち』はまさに実践。現役大学生の就職活動生のために、1日中連れ回して鍛えています。挨拶の仕方、電話の掛け方、メールの出し方、コピーの取り方まで事細かに教えていきます。私にとっては慈善事業みたいなもの。学生には神経使うし時間も取られます。PCは壊されたり、応対に失敗して100万円のクライアントに逃げられたりしたこともあります。まあ、それも私の責任なので



アイドル女子レスラー「風香」選手による生い立ちから現在に至るまでの赤裸々な講義。男子学生は食い入るように聴く



企業の好意で借りている畑「ベンチャー畑」で、枝豆や大根、かぼちゃを育てている。収穫物の販売もすることで収益の構造を考える機会に



時にはプロレス団体のリングを借りて、プロレスラーと一緒に練習することも。第1期生23名の入学式も後楽園ホールのリング上で行った



吉田松陰先生の故郷、山口県萩市の松下村塾での講義の一場面。由緒ある志と学問の場で学生も気持ちさがさらに引き締まる

すが」と、と屈託がない。

「付き人、舎弟、丁稚、鞆持ちと昔からいろいろあるでしょう。常に一緒に歩いていきます。契約の場や謝罪の場、経営者との食事会まで一緒。会話は経営の生の話ですからね。とっても人間臭いのです」(山近氏)

松下政経塾は肉食系、日本ベンチャー大学は雑食系

この1月に松下政経塾との交流がはじまった。「本学で講義をしていただいた政治家の紹介で、恐る恐る松下政経塾に訪問しました。『志』以外は、随分と大きな差が……。松下政経塾はエリート教育で、元官僚とか、元東大生だったり、市役所の人間だったりしますが、こっちはゴロツキの集まりのようなものです。(笑)しかも松下政経塾塾生はイケメン。経営母体も天と地の差ほど。

しかし吉田松陰の松下村塾が80人のゴロツキの集まりだったように、ここからも『志』を持った人物を出したいですね。松下政経塾は400人受けたうちの6人ぐらいしか受からないうのですが、うちの場合は来た子は基本的にOKで、ほとんど皆入塾できます。10年後、ある意味では松下政経塾に並ぶようになりたいですね。

松下政経塾は、いわば『肉食系』を作る大学だと表現するならば、こちらは『雑食系』を作る大学といつていいでしょう。3～5年後、あるいは10年後には民間企業で日本を支え、あるいは議員が出てくるかも知れません。ここから出るやつらは日本を席巻しているだろうと思います」

と語る山近氏は、学生の将来に対して期待している。

同じく今元氏も、「将来、世界一の社長と総理大臣を出すことが目標です」と、壮大なビジョンを描いている。